

小児科

《概要》

今年度の小児科診療体制は、常勤医 5 名、後期研修医 1 名、計 6 名でスタートしたが、次年度に常勤医 2 名および後期研修医 1 名の退職が確実なため、相変わらず人の確保に四苦八苦の状態が続いている。昨年度からの小児科診療業務縮小体制を維持しつつ、一般小児科診療、救急外来診療、周産期医療を継続して行っている。

外来診療では、一般外来(月曜のみ 2 診制、火～金は 1 診制)、慢性外来、1 ヶ月健診、専門外来として循環器外来(第 2 金曜、完全予約制)、小児神経外来(第 2・4 火曜、完全予約制)を行っている。

泉州二次医療圏における小児救急医療体制に関しては、2006 年 11 月 3 日にオープンした泉州北部小児初期救急広域センターがその機能を維持している。入院が必要と思われる患児は、その診療時間帯に後送病院として、輪番制で行っている従来の泉州地区 7 病院(和泉市立病院、泉大津市立病院、市立岸和田市民病院、岸和田徳洲会病院、市立貝塚病院、市立泉佐野病院、阪南市立病院)に紹介され、そこで最終的に入院の要否が決定される。また、消防隊からの救急車による搬送も当番の輪番病院に集められる。広域センターの終了後、23 時以降は、その日の輪番病院で従来の夜間小児救急が行われている。当院の小児救急輪番担当日は、偶数週の日曜日 17:00～23:00 が広域センターからの後送病院担当、同 23:00～翌 6:00 が一次救急診療対応時間帯である。

周産期医療の中心は、NICU(neonatal intensive care unit)の運営である。大阪府内におけるハイリスク妊娠・分娩および新生児の診療に対応すべく、当院産婦人科は産婦人科診療相互援助システム(OGCS)、小児科は新生児診療相互援助システム(NMCS)に参加し、泉州地区周産期医療の活動拠点となっている。OGCS からは緊急母体搬送の受け入れ、NMCS からは疾病新生児や早期産児の搬送を受け入れている。2001 年 9 月以降、NICU への早産児受け入れ基準は、在胎 25 週以上、出生体重 500g 以上とし、本格的な NICU 稼動への態勢を継続している。昨年度に設立された泉州広域母子医療センターも順調に機能しており、当初想定した年間分娩数を消化しているが、GCU を拡張できたことにより、NICU をより効率よく運用することができている。また、母体搬送も、より早い時期の切迫早産を呈する症例の受け入れが可能となっている。

《実績》

昨年一年間に外来を受診した患者の延べ数(救急外来受診患者を除く)は 8,733 人、月平均約 730 人で、昨年より約 300 人の減ではあるが、ほぼ横ばい状態であった。

一方、救急外来の受診患者延べ数は 733 人と昨年より増加に転じた。恐らく新型インフルエンザの流行によるものと思われる。表 1 に救急外来受診児数を示す。17～23 時は、泉州北部小児初期救急センターの後送病院および救急搬送症例の輪番病院として機能している。それ以降は、一次救急にも対応している時間帯である。二次救急時間帯はそのような理由から、受診児数 111 人中、入院症例も 43 人(38.7%)、救急外来受診児全体の 5.9%と高めであるが、一次救急の時間帯では軽症例が圧倒的に多く、入院例は 17 人(2.7%)、救急外来受診児全体の 2.5%にすぎず、この傾向は例年どおりである。救急外来からの入院を全体で見れば、60 人、8.2%であった。

NICU の入院統計を表 2 に示す。泉州広域母子医療センターが機能し、また GCU を拡張できたことにより、特に院内出生児の入院数が増加し、この年初めて 100 人を越えて 101 人、院外出生児の入院

数はほぼ横ばいで、結果的に計 123 人の入院となった。極低出生体重児は 32 人(26.0%)、うち超低出生体重児は 11 人と前年のほぼ倍であった。28 週未満の児は、昨年より倍近くではあるが 7 人と少なかったことから、昨年同様、胎児発育遅延児の割合が若干高いことが示唆される。母体搬送はかなり増加しており、院内出生 101 人中、53 人(52.5%)が母体搬送後の出生であった。人工換気療法に関しては表 2 に示すとおりである。この年、周産期センターでの死亡例は 2 例で、1 絨毛性 2 羊膜性双胎の致死性疾患合併例であった(表 3)。

小児科一般病室の入院患者数は延べ 239 人。昨年より 11 人の減少であった。表 4 に入院児の主診断を示す。例年通り、気管支喘息、肺炎、喘息様気管支炎、ウイルス性腸炎など急性感染症が大部分を占めていた。病診連携によって紹介された患者の入院数は 75 人、入院児全体の 31.0%であり、例年とほぼ同等の傾向であった。

表 1. 救急外来受診児数

	17 時～23 時	23 時以降	計
受診児数	111	622	733
入院児数	43	17	60
救急搬送	73	55	128

表 2. NICU 入院数

(2009. 4～2010. 3)

出生体重 (g)	院内出生	母体搬送	院外出生	計	IPPV	N-DPAP
<500	0		0	0		
<1,000	10	9	1	11	10	7
<1,500	19	17	2	21	14	16
<2,000	28	11	2	30	9	11
<2,500	20	8	2	22	4	10
≥2,500	24	8	15	39	8	11
計	101	53	22	123	45	55
在胎期間 (週)	院内出生	母体搬送	院外出生	計	IPPV	N-DPAP
<28	5	5	2	7	7	5
<30	7	7	0	7	7	5
<32	17	13	1	18	13	14
<34	17	10	1	18	6	9
<37	26	13	1	27	5	12
≥37	29	5	17	46	7	10
計	101	53	22	123	45	55

表 3. 周産期センターでの死亡例

(2009. 4～2010. 3)

出生年	出生場所	性別	出生体重 (g)	在胎期間 (週)	アプガー点数		死亡日齢	剖検	診断名
					1 分	5 分			
2009	院内	女	930	29	1	1	0	あり	双胎、先天性気管狭窄症、食道閉鎖、気管食道瘻、口唇口蓋裂、両大血管右室起始症
2009	院内	女	1092	29	1	1	1	あり	双胎、肺低形成、多嚢胞腎、両大血管右室起始症、鎖肛

表 4. 入院児主診断名

感染症・寄生虫症	
ウイルス性腸炎	
ロタ腸炎	2
感染性胃腸炎・詳細不明	5
百日咳	1
敗血症性ショック	1
細菌感染症・詳細不明	2
ヘルペス口内炎	1
急性ウイルス性発疹症	1
ムンプス髄膜炎	2
流行性耳下腺炎	2
不明熱	1
新生物	
回腸末端リンパ腺胞増多症	1
血液・造血器・免疫疾患	
アレルギー性紫斑病	5
紫斑病性腎炎	1
好中球減少症	1
内分泌代謝疾患・栄養障害	
I型糖尿病	1
成長ホルモン分泌不全性低身長	5
低身長	1
プロピオン酸血症	4
消化器疾患	
顎下腺炎	1
上腸間膜動脈症候群	1
急性虫垂炎	1
腸重積症	9
腸間膜リンパ節炎	1

神経系・感覚器疾患	
連鎖球菌性髄膜炎	1
無菌性髄膜炎	1
てんかん発作	5
筋緊張性障害	1
脊髄横断障害	1
蘇生後脳症	1
アセトン血性嘔吐症	1
熱性けいれん	9
無熱性けいれん	2
けいれん重積発作	3
ショック	1
高クレアチンキナーゼ血症	1
皮膚・皮下組織の疾患	
ぶどう球菌性熱傷様皮膚症候群	2
頸部膿瘍	1
蜂巣炎	2
化膿性リンパ節炎	2
皮膚感染症	1
泌尿・生殖器疾患	
急性腎炎	1
微小変化型ネフローゼ症候群	1
急性腎盂腎炎	1
急性腎不全	1
尿路感染症	2
先天奇形・変形・染色体異常	
スタージ・ウェーバー症候群	1
筋骨格系・結合組織疾患	
単純性関節炎	1
川崎病（不全型を含む）	15
横紋筋融解	1

呼吸器疾患	
アデノウイルス性急性咽頭炎	1
急性扁桃炎	2
急性上気道炎	3
インフルエンザウイルス感染症	8
インフルエンザ脳症	1
肺炎	
インフルエンザ肺炎	1
RSウイルス肺炎	2
ウイルス性肺炎	3
インフルエンザ菌肺炎	5
マイコプラズマ肺炎	3
細菌性肺炎	6
気管支肺炎	5
肺炎・詳細不明	12
RSウイルス急性気管支炎	5
急性気管支炎	5
RSウイルス細気管支炎	10
急性細気管支炎	3
喘息性気管支炎	13
気管支喘息	20
周産期疾患・先天異常・保育	
極低出生体重児	2
新生児黄疸	16
新生児けいれん	1
耳鼻咽喉疾患	
急性滲出性中耳炎	1
急性扁桃耳管炎	1
損傷・中毒・アレルギー	
溺水	1
紹介入院率	
75/239=31.0%	

《業績》

(1) 学会研究会発表 (2009.4～2010.3)

番号 整理	演 題	発 表 者	学 会 ・ 研 究 会 名	年 月 日
1	母体・胎児のトランス脂肪酸分析	和田芳郎 他	第 34 回日本医用マススペクトル学会年会 (大阪市)	2009. 9. 10

(2) 学術講演 (2009.4～2010.3)

番号 整理	演 題	発 表 者	発表場所及び対象	年 月 日
1	大阪の新生児集中治療システム(NMCS)	住田 裕	市立泉佐野病院臨床集談会 (泉佐野市)	2009. 10. 22

(3) 論文 (2009.4～2010.3)

番号 整理	題 名	著 者	著書・誌名	巻(号)	ページ	年
1	Message for Neonatal Staff. 孫ってかわいい?	住田 裕	ネオネイタルケア	22(8)	786	2009.